

情報連絡員報告総括表（令和3年11月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況								
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化						
製 造 業	食料品		4		1	3		1	3			4			2	2		3	1		4			3	1		1	1	3					
	繊維工業	2		1		2	1		2	1		2	1	1	1	1		2	1	1	2			2	1	1	1	1	1					
	木材・木製品	1					1	1			1			1				1		1				1		1								
	紙・紙加工品			2		1	1		2			2				2		2				2		2			1	1						
	印刷		1			1			1			1				1		1			1		1			1								
	化学・ゴム																																	
	窯業・土石製品	2	1			3			3			3			3			3			3			3			3							
	鉄鋼・金属	1				1			1			1			1			1		1		1		1		1								
	一般機器		2	1	3			2	1			3			2	1		3			2	1		1	2		2	1						
	電気機器			1			1			1					1				1			1		1					1					
	輸送機器			1			1		1				1			1			1			1		1					1					
その他																																		
小計		6	8	6	4	11	5	4	14	2	1	17	2	2	9	9		16	4	3	12	5	1	15	4	3	9	8						
非 製 造 業	卸売業		2			2		1	1			2			1	1		2		X				2			1	1						
	小売業		2	4		6		3	3			2	4		1	5		1	5								6			1	5			
	商店街		1				1		1			1			1			1									1			1				
	サービス業		4	1	X				5			5			5			4	1									5			5			
	建設業		3	1						4			2	2		2	2		3				1							4			3	1
	運輸業			1						1			1				1							1						1				1
	その他	1								1			1			1			1						1					1		1		
小計		1	12	7		8	1	4	16			14	6		11	9		12	8					20		1	11	8						
合計		7	20	13	4	19	6	8	30	2	1	31	8	2	20	18		28	12	3	12	5	1	35	4	4	20	16						

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和2年11月～令和3年11月)

三重県中小企業団体中央会

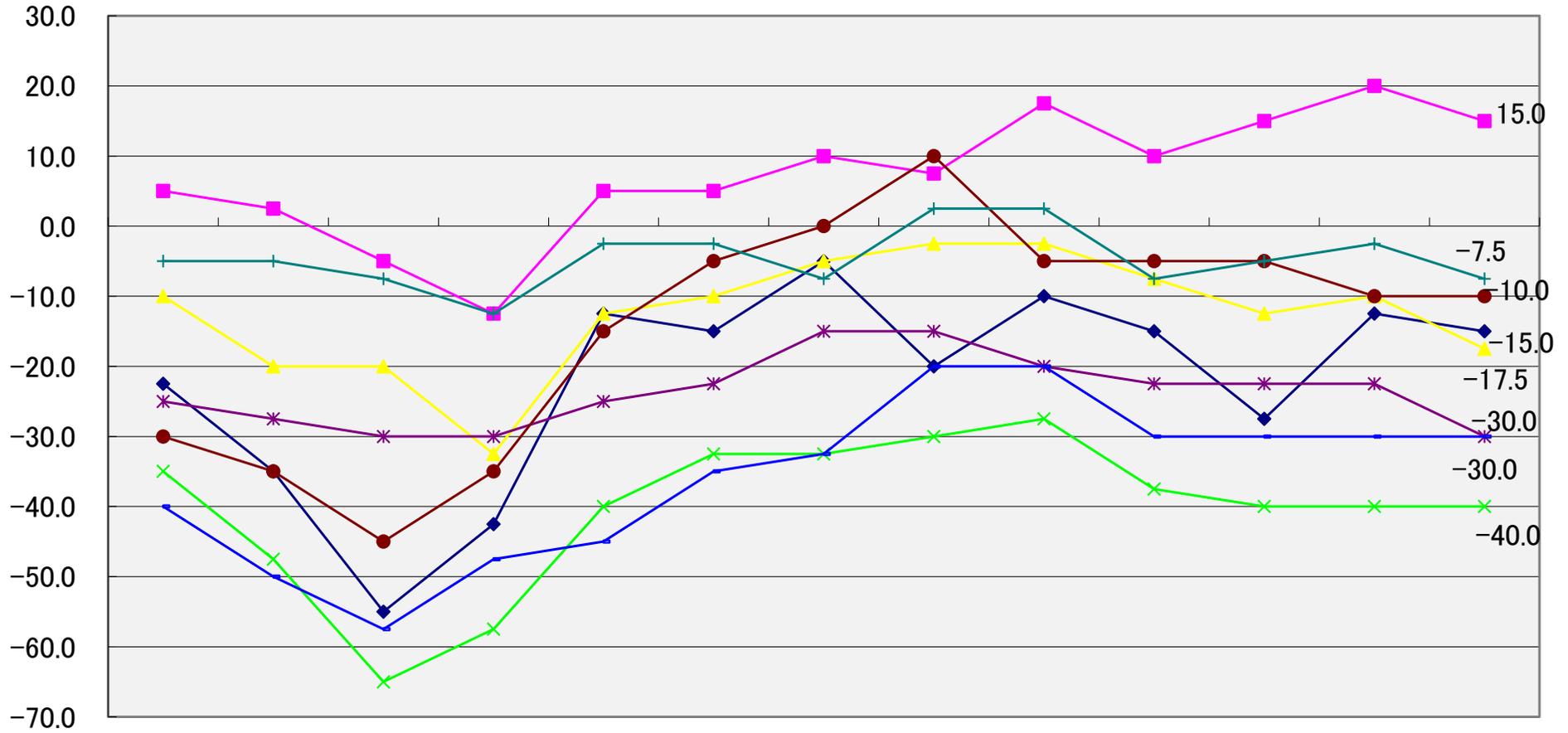
連絡員総数 40名

	2/11月	12月	3/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	増減
売上高	-22.5	-35.0	-55.0	-42.5	-12.5	-15.0	-5.0	-20.0	-10.0	-15.0	-27.5	-12.5	-15.0	-2.5
販売価格	5.0	2.5	-5.0	-12.5	5.0	5.0	10.0	7.5	17.5	10.0	15.0	20.0	15.0	-5.0
取引条件	-10.0	-20.0	-20.0	-32.5	-12.5	-10.0	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-12.5	-10.0	-17.5	-7.5
収益状況	-35.0	-47.5	-65.0	-57.5	-40.0	-32.5	-32.5	-30.0	-27.5	-37.5	-40.0	-40.0	-40.0	0.0
資金繰り	-25.0	-27.5	-30.0	-30.0	-25.0	-22.5	-15.0	-15.0	-20.0	-22.5	-22.5	-22.5	-30.0	-7.5
設備操業度	-30.0	-35.0	-45.0	-35.0	-15.0	-5.0	0.0	10.0	-5.0	-5.0	-5.0	-10.0	-10.0	0.0
雇用人員	-5.0	-5.0	-7.5	-12.5	-2.5	-2.5	-7.5	2.5	2.5	-7.5	-5.0	-2.5	-7.5	-5.0
業界景況	-40.0	-50.0	-57.5	-47.5	-45.0	-35.0	-32.5	-20.0	-20.0	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	0.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

2/11月 12月 3/1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月



◆ 売上高 ■ 販売価格 ▲ 取引条件 × 収益状況 * 資金繰り ● 設備操業度 + 雇用人員 — 業界景況

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	原料用野菜は、8～9月にかけての長雨と日照不足の影響で生育不良となり、年末の漬物需要の増加にも関わらず、原料生産が不足している。生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。また、販売状況においてもコロナウイルスに関わる外出自粛の影響により、駅、土産物店等のお土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いていたが、コロナの感染拡大が減少してきたことから、需要の回復を期待している。
	醤油味噌	県内も少し回復の兆しがあり、今後に期待したいところである。醤油の値上げを大手企業が来年2月16日から実施するとの発表があり、各社はこれから値上げをしていくことになる。
	豆腐	コロナ感染が今のところ収まっており、外食産業への食材としての納品は少しずつ戻りつつある。
	製麺	12月17日に組合の会合を行う。今の現状を把握して、組合員の方々に良くなっていただけるようにしていきたい。また、HACCPの取り組みも行っていくつもりである。
繊維工業	組紐	景況としては好転の兆しはあるが、2019年度以前に比べればまだまだ厳しい現状である事は変わらない。
	衣料縫製	コロナ禍による社会情勢により、今後の経営状態が大変厳しく、先行きが見通せない。
木材・木製品	木材	本年春頃より続くウッドショックにより、依然として、国産材に対する需要は旺盛で、前年同月比では原木、製品共に高値で推移している。
紙・紙加工品	紙器段ボール	10月と比べ、半導体の供給は増加し、自動車、電機関係で少しは生産量が増え、段ボールケースの需要も伸びている。組合員企業の生産量は前年同月と同じか、5～20%程度、前年対比マイナスであり、企業間で差が出ている。
	古紙	11月期の仕入れ量は、段ボール・約98±2%、新聞、チラシ・約92±8%、雑誌、雑紙、その他・合わせて約94±5%の模様である。段ボール箱等は巣ごもり需要と通販等で増えているが、段ボール古紙の発生から想定すると、重量は微増で、新型コロナウイルス感染者も激減し、飲食・旅行の需要が増え、平均4～8割前後の来客であり、コロナ前までには達していない。変異種で海外旅行に行きにくい状況で、内需(国内旅行・巣ごもり消費等)に期待したい。新聞・チラシや雑誌・雑がみは仕事の受託により集荷が増えている組合員もあるが、前年より微減かもしれない。菅政権のスマホ料金値下げは、各家庭の支出を抑え個人消費の原資になっているようで、有難い事である。賃上げも最低賃金や年々の対応を努力し、賞与も支給できるので有り難いが、責任政党は税制改正や助成金等で援助いただいたので期待している。本年度は同業他社の梱包機による死亡事故が3件あり、年の瀬で年末年始の繁忙と火事・事故等の防止に気が抜けない。もちろん、ゴミ等の不法投棄や古紙の持ち去りも無くならず、古紙業界で法制化をお願いしている。
印刷	印刷	県に永年要望してきた知的財産権の適切な取り扱いについて、今年の回答があった。「三重県に著作権等を譲渡する旨の記載をせず、著作権等を印刷事業者に残すよう研修会で指導」との回答があり、徐々に著作権等が守られることに期待する。
窯業・土石製品	コンクリート	地域的にはバラバラであるが、特に北勢地域での需要が多い状況が続いている。
	伊賀焼	お客さまも少しずつ増えてきて、販売の方も少しずつ動き出しているように感じている。しかしながら、原料(ガス、灯油)等の燃料の高騰には、各組合員とも大変苦労している。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は10月とほぼ同様であった。新型コロナウイルス感染も収束気味で生産活動がやや活発化し、自動車関連部品は増加、電気関連部品、建築関連部品、ガス関連部品は横ばいの状態であった。半導体関連部品は、高止まりで継続している。コロナ禍で技能実習生、特定技能者の入国が遅れ、生産への影響は継続している。
一般機器	四日市	三重県はこのところ、コロナ感染者がゼロの日が続いている。ところが、また変異株の「オミクロン株」がアフリカで発生し、日本でも確認された。このところ、海外に依存している部材や部品の供給が停滞気味である。特に半導体関連の入荷遅れは、半年以上になっている。
	津市	半導体やコロナによる影響はあまり受けなかったが、材料の入手が依然として厳しい状況である。特に銅系の材料は4月に注文した物が11月にやっと入荷するとの事である。従って、受注が増えても材料が入手できるかという懸念がある。また、一部の部品ではあるが、中国の停電による影響で注文が少なくなっている。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）	
	伊勢	経済状況を見ると、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、11月から国内の自動車生産台数が回復し始めた。11月19日に政府の経済対策が打ち出された。これに先立ち、5日には入国緩和策が発表され、国際交流での外国人材の受け入れも再開し、さあ、これからという時にオミクロン株で再度の新規入国が禁止となった。先行きが心配である。	
	電気機器	鳥羽	鋼材、非鉄金属類とも価格の値上がりは止まらず材料不足でもあるが、半導体関連の制御部門が好調になりつつある。ただし、電機関連はまだ戻る傾向はない。
	輸送機器	鈴鹿	この数ヶ月間、海外からの部品調達の影響により生産調整をしていた各自動車メーカーだが、一部の売れ筋車種では休日稼働をして生産遅れの挽回が始まっている。そのしわ寄せにより、下請け企業の生産計画も変更し次々変更で混乱が生じている。
非 製 造 業	青果	野菜前半：玉ねぎ、人参は高値が続くが、全体的にやや安くなっている。特に大根、白ネギがお買い得である。入荷が減ったトマトも岐阜、愛知、県内産が増えて値下がりしている。野菜後半：キャベツ、白菜、大根等は順調に値下がりしている。地場産のほうれん草、小松菜、ブロッコリーもお買い得である。一方、北海道産の玉ねぎ、じゃがいもは高値が続いている。 果物前半：県内産、和歌山、静岡、愛知のみかん産地からの入荷が増えているが、人気があり引き合いが強い。りんごはシナノスイートが終わり、長野産サンフジの入荷が増えているが高値である。いちごは例年に比べて入荷が多い。果物後半：県内産の次郎柿、岐阜県産の富有柿の入荷が少なく値上がりしている。いちごは県内産が中心で10月～11月にかけての気温が高いため、生育が早く例年より値段が安い。りんごは長野産サンフジが終盤になり、値段は高い。青森産サンフジ、王林が入荷している。みかんは順調に入荷している。	
	自転車	長らくコロナ感染拡大の影響で、会議の開催が連続で中止されていたが、感染者数が落ち着いた11月26日、愛知県にて少人数、短時間での中部自転車ブロック会が開催された。各県の動向として商品の動きはこの1年、愛知、静岡は昨年並みで、三重県を含む中部5県はマイナス20～30%と低調となっており、10月1日からの自転車用品、部品が15～20%以上の値上げとなる。発注料も加算される中、日本自転車商協同組合連合会による共同購買事業（本部出資）において、1メーカーが用品の斡旋事業に手をあげてもらった。各ショップにて注文、決済を直接行う方式の発表があり、今後組合員への通知をすところである。また、創立70周年記念事業として、希望者に自転車安全整備士、技工認定証の発行を行う予定である。	
	電器	11月の販売も大変苦戦した。単月では前年から約1割落とした。4～11月累計でも同じような状況である。特に主力商品のエアコン、冷蔵庫の販売苦戦が続いている。洗濯機も予想以上に苦戦であった。オリンピック開催後の4K・8K対応のテレビの販売では、11月は前年ダウンであった。累計でも前年並みになった。また、半導体の不足により多くの商品が影響を受けているが、中でも情報通信関連の電話・FAXが壊滅状況になっている。ドアホンの一部も非常に厳しい状況である。コロナ禍の中、需要が大変厳しい状況が続いている。テレワーク・巣ごもりと新たな環境にも敏感に対応してきたが、耐久品である主力家電商品は買替えが基本なので、市況が好転しないと、販売が毎月厳しい状況が続く。ただ、リフォームの取り組み店は今後期待が感じられる。コロナ禍の中で訪問活動を控えていて、催事のあり方も変わってきている。催事に工夫と手間をかける店とそうでない店の販売格差が大きくなり、二極化が進んでいる。個展催事は店間の格差が大きくなっていく。在庫は実需とのタイム差があるが、全体としては横ばいの状況であるが、商品により微増である。コロナ禍の中で需要の低迷が厳しさを増し、見通しは非常に厳しい状況が予想される。しかし、電器店は店主の高齢化による販売ダウンが課題で、業界の中でも地域電器専門店はこの課題への対応と後継者問題が大きな問題となっている。	
	石油	【2021年11月17日 石油増税反対総決起大会の大会決議の一文より】 サービスステーションの数は、ピーク時の6万件から2.9万に半減し、サービスステーションが3ヶ所以下になった市町村は343ヶ所（2021年3月末現在）となり、サービスステーションの過疎化が一層進んでいる。さらには、カーボンニュートラル化等により、石油需要は一層減少する事が見込まれ、これ以上のサービスステーションの減少が続けば、災害時における燃料供給の確保に支障が生じかねない。石油製品の安定供給体制を維持するため、国は石油産業が取り組む強靱化対策や事業再構築・事業転換等による経営体質強化に積極的な支援を行うべきである。そして災害時だけでなく、平時から中小石油販売業者の受注機会の拡大に努めるべきである。ついでには、石油をめぐる現下の厳しい情勢をふまえ、石油業界の総意として消費者の負担軽減と、石油サプライチェーンの維持強化を目指して、政府・国会に対して、①さらなる石油増税や炭素税の導入には反対する。②自動車用エネルギーへの不公平な課税を許すな！③これ以上、サービスステーションを減らすな！を要望し、その実現を強く求めるものである。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	スポーツ	コロナが収束に向かいつつあるのか、感染者数が少なくなってきている。それで、学校の行事(特にクラブ活動)も以前に比べて活発になっているようである。トレーニングセンターの入場者も増加しつつあるようであるし、小中高の運動クラブの大会も開催されており、このままの状態に進んでほしいと思っている。ただ、気になるのが製品の価格が少しづつ上がってきている事である。長い間、デフレの世界で皆が過ごし、価格の上昇に対して理解しづらいようである。「あがった あがった」とうるさい位で困っている。
商店街	熊野市	現在熊野市で宿泊した県民の方限定の「Welcomeくまのキャンペーン」を開催中で、商品券のプレゼントをしており、効果は高まっている。ただ県民限定であるのに加え、昨年のGo to トラベルクーポンほどの効果ではないので、今後再開を期待している店舗も多いようである。
サービス業	旅館	昨年は「Go to トラベル」が7月22日よりスタートして、夏休み頃より徐々に効果が出てきて昨年11月は最高に効果が出た月で、三重県は全国的にみても客足の戻りが早かったこともあり、対前年を超える施設が多かったが、今年は「緊急事態宣言」も解除され「県民割」効果もある程度は出ていたが、昨年のような勢いは全く見られず、昨年の70~80%程度の業績のようであった。大規模旅館はコロナによって旅先が近場志向になった修学旅行客が伊勢志摩を中心に多くなり、業績悪化の歯止めとなった。
	測量	現在、調査1件を組合にて受注したため、組合員が総力を上げ、施工中である。
建設業	内装工事業	11月も前月と同様、対前年同月比でマイナスとなった。コロナの影響もあるのか、業界の動向は非常に厳しい。
	水道工事業(亀山)	資材の入手が困難な状況が続いている。半導体を使用するトイレ、給湯機器が入手できない状況である。代替品等で施工してきたが、代替品もなくなってきている。また、資材単価もどれが値上がりするかが不透明で、見積単価、施工時期もわからないままである。仕事はあるが、施工できていない状況となりつつある。
運輸業	トラック	原油価格は世界的な需要の拡大等により、供給不足となり高値が続き、燃料価格の高騰がコロナ禍による経営状況の悪化に拍車をかけている。電子部品、デバイス関連については好調が続いていたが、12月に入ってから減少に転じたため、輸送についてもその影響を受けることとなった。自動車関連については、半導体不足や東南アジアからの部品供給の滞りがあるものの、前月に比べ改善の兆しがみられるため、輸送についても現状維持となった。スーパー小売り関連の輸送については、ほぼ横ばいで推移した。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	補助金等のお知らせがあれば、教えて下さい。今後ともよろしく申し上げます。
一般機器	四日市	新政府に望む事 ①コロナウイルス感染症対策の徹底。②外交問題の解決と貿易振興。
サービス業	旅館	「三重県民割」の効果は出ているが、さらに近隣県とも協力して割引範囲を「近県割」まで拡大してもらいたい。
	測量	後継人を育てていきたい。組合員各位の緩やかな成長を望んでいる。